

学校だより(ねあがい)

平成30年3月8日発行

校長 石田 恵一

1年を振り返って

根上中学校に赴任して1年目が終わろうとしています。校長として、全職員が心を合わせて教育活動に全力で取り組める学校づくりを目指したいと思っています。大人の本気の思いや願いが、子ども達を成長させると思っているからです。そのために、こんな子ども達を育てたいという目指す学校像・生徒像を明確にすることが大切だと考えています。登校時や休み時間などには子ども達の笑顔が広がって、授業が始まれば別人のように集中して授業に参加する。日々の清掃活動や係活動だけでなく、運動会や文化祭、合唱コンクールなどの学校行事にも心を合わせて全力で取り組む。一人一人の子ども達がキラキラ輝いている。全職員で心を合わせて、そんな学校をつくりたいと考えています。もちろん、まだまだ至らぬ点が多いと思います。根上中学校が、真の学舎まなびやとして、保護者や地域の方々から信頼され愛される学校となるよう、先生達と心を合わせて誠心誠意がんばりたいと思います。

本校の課題

学力調査の結果や各種調査の結果から、本校の子ども達の自己肯定感の低さが課題となっていました。「学級のみんなで物事を最後までやり遂げて嬉しかったことがある」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」「自分には良いところがあると思う」これらの項目へのアンケート結果のポイントは、県平均を下回っていました。そこで、運動会や合唱コンクール、文化祭などの学校行事や部活動の取組を充実させることにより、達成感や感動を積み重ね、子ども達の自己肯定感を育むことに組織的に取り組んできました。

この1年間、子ども達には、「どんなことも一生懸命頑張るから大変だけど、みんなで心を合わせて、大きな努力を積み重ねてやり遂げた後に待っている、あの感動、あの達成感は、苦しんだ人にしか分からない、人と心を合わせてやり遂げた人にしか分からない素晴らしい世界だから、大きな感動や達成感を積み重ねて、根上中学校を胸を張って卒業して欲しい」と話し続けてきました。この間、学校行事や部活動に一生懸命取り組み、大きな感動や達成感を積み重ねる姿を見る事ができました。各種調査の結果からも、本校の子ども達の自己肯定感が向上しているのが分かります。子ども達には、今度は授業を変えようと言っています。

【裏面に続く】

3年生が残してくれたもの

9日（金）に卒業式が挙行されます。この1年間の3年生のがんばりは深く心に残っていますが、特に、運動会・合唱コンクール・文化祭などの学校行事の取組や部活動での真剣な姿などは、深く心に残っています。3年生が、学校生活に全力で取り組み大きな成果をあげる。



その姿にあこがれ、下級生が、新3年生を中心に先輩達を超えたとさらにがんばる。「あんな3年生になりたい！」という声を何度も耳にしました。そして、子ども達のがんばりを支える先生や保護者の方、地域の人達がいる。自分の理想とする学校です。この繰り返しの中で、良き伝統、良き校風が生まれるように思います。この1年間、3年生は最上級生として、これらの学校生活に全力で取り組み、感動と大きな足跡を残してくれました。その後ろ姿を、下級生はしっかり見ていました。良き伝統・良き校風が生まれつつあると感じています。

3. 11を風化させない

まもなく東日本大震災から7年目の3月11日を迎えます。この未曾有の大災害は、災害に対する認識や被災地に対する支援の在り方等だけでなく、改めて、私たち一人一人に、生きること、生かされていることの意味を問い直すことになりました。家族や仲間がいること、学校へ行けること、仕事ができることなどは決して当たり前ではない・・・。「3・11を忘れてはいけない」、心からそう思います。

7年前に話題となりましたが、震災直後に開催された高校野球開会式における、創志学園高等学校野球部主将野山慎介くんの選手宣誓を改めて紹介し、当時を振り返りたいと思います。

宣誓。私たちは16年前、阪神・淡路大震災の年に生まれました。今、東日本大震災で、多くの尊い命が奪われ、私たちの心は悲しみでいっぱいです。被災地では、全ての方々が一丸となり、仲間と共に頑張っておられます。人は仲間に支えられることで、大きな困難を乗り越えられると言っています。私たちに、今できること。それはこの大会を精一杯元気を出して戦うことです。がんばろう、日本！生かされている命に感謝し、全身全霊で、正々堂々とプレーすることを誓います。